

鴻巣市賑わい創出交流拠点整備事業

—No.15 鴻巣市—

賑わい創出交流拠点（イメージ）



【事業の目的】

市役所のほか、公園や文化センター、体育施設、さらに県内唯一の運転免許センターなど多くの人が行き交う公共施設地ゾーン内の既存施設を改修し、本市の強みである「花」を生かした、カフェを中心とした施設整備を行い、賑わい創出と交流促進の拠点とすることで、関係人口の創出・拡大を目指します。

【事業の内容】

女子栄養大学及び日本薬科大学との「地場産業の振興等に関する包括連携協定」に基づき、「食」と「健康」をテーマに、地場産品を使用した食の提供、新商品の開発・販売を行い、ブランド力強化による産業の発展と市の魅力・認知度向上を推進します。

本施設ではカフェを主に、情報発信拠点、イベント交流拠点、コワーキングスペースなどの機能をもたせるほか、6次産業化研究開発拠点として食品加工室を整備し、大学生による商品開発を行い、物販コーナーでの販売を行います。

【事業年度】

令和元年度～令和3年度（3か年）

【予算額(千円)】

218,711 千円（令和元年度～令和3年度）

うち 8,520 千円（令和2年度）

【財源】

地方創生拠点整備交付金（国）、地方創生推進交付金（国）、ふるさと創造資金（県）、地方債、一般財源（市）

【事業実施に至った背景・経緯】

本市の魅力発信や賑わいの創出に当たっては、PR効果や集客力の高い花まつりや産業祭、花火大会などのイベントに頼ってきましたが、市内への経済波及効果が限定的でした。新型コロナ対策として、また新たな生活様式への対応としても、イベントや賑わいづくりにおける新たな取組として、一年を通じて農業や商工業の分野に効果的な消費活性化策を検討してきました。

そのような中、産官学連携による鴻巣市の地場産品のブランド化を推進し、SNS等を活用した市の魅力発信に取り組むこととしました。

【事業のPRポイント】

- 女子栄養大学及び日本薬科大学の学生に、食(栄養)と健康(漢方)の双方からメニュー提案を受け、カフェで提供します。
- 市内で生産された米や野菜に加えて、無農薬栽培による食べられる花＝エディブルフラワーを活用したメニューを提供し「花のまちこうのす」を体現するほか、管理栄養士による「栄養」「健康」指導による健康増進を図ります。



エディブルフラワーを使ったクッキー

【事業実績・成果・今後の展開】

＜令和元年度＞

基本設計を兼ねた基本計画を策定。日本薬科大学、女子栄養大学の学生と本市職員による「食」をテーマとしたワークショップを開催

＜令和2年度＞

官民連携パートナーを公募により選定し、市や大学生、民間事業者等と連携してオープンに向けての運営準備を行う。

＜今後の展開＞

令和3年度に施設改修を行い、令和4年度から供用開始予定。

〔 連絡先 〕

総合政策課 048(541)1321(内線2238)